

学位論文審査の結果の要旨

平成26年12月24日

審査委員	主査	鈴木 康之 印		
	副主査	今村 克己 印		
	副主査	村尾 孝規 印		
願出者	専攻	分子情報制御医学	部門	病態制御医学
	学籍番号	11D742	氏名	藤原 新太郎
論文題目	The efficacy and safety of prophylactic closure for a large mucosal defect after colorectal endoscopic submucosal dissection			
学位論文の審査結果	<input checked="" type="radio"/> 合格	<input type="radio"/> 不合格	(該当するものを○で囲むこと。)	
<p>〔要旨〕</p> <p>【背景】</p> <p>大腸内視鏡的粘膜下層剥離術 (endoscopic submucosal dissection:以下大腸 ESD) は、側方発育型腫瘍 (laterally spreading tumor:LST)、粘膜下層軽度浸潤癌などを代表とする大きな大腸腫瘍に対する治療法として需要が高まり普及しつつある。従来の方法 (内視鏡的粘膜切除術:EMR) では内視鏡治療が困難であった病変の治療が可能となり、高い一括切除率や低い局所再発率などの長所が注目される一方、従来法と比較すると穿孔・腹膜炎など発生率が高く問題となっており、穿孔・腹膜炎を未然に予防する対策が求められている。</p> <p>【目的】今回、大腸 ESD 後の人工潰瘍に対し、クリップを用いることで内視鏡的に予防的に創面を縫縮することにより、術後発熱や腹膜炎所見、炎症反応に対する改善効果や遅発性穿孔、後出血などの術後合併症発生に関して検討した。</p> <p>【方法】当院にて大腸 ESD を施行した年齢 18 歳以上を対象とした。大腸 ESD 後の人工潰瘍が小さい場合はクリップのみによる創面縫縮し、クリップ単独による縫縮が困難な大きさの潰瘍の場合は OTSC(Over The Scope Clip)およびツイングラスパーを用いて創面縫縮を行った。主要評価項目として、①治療時間②一括切除率③切除不能率④術中穿孔率⑤遅発穿孔率⑥後出血率⑦腹膜炎所見の有無⑧38 度以上の発熱⑨炎症反応の上昇 (WBC<10000μLかつ CRP<2mg/dL) を設定した。手技施行日を POD0 とし、術後 1 日目 (POD1) および術後 4 日目 (POD4) に採血を行い白血球および CRP など炎症反応の評価を行った。また術後 7 日目 (POD7) に下部消化管内視鏡検査を施行し、ESD 後の創の状態を確認するため大腸内視鏡検査を行った。</p>				

【結果】

予防的クリップ縫縮術を行った群では非縫縮群に比して、腹部症状と体温など自他覚症状、術後1日目の白血球数、術後4日目のCRP値が有意に低かった。大腸ESD術後合併症については、統計学的な有意差は認められないものの、縫縮群0%(0/27)、非縫縮群が7.3%(3/41)(遅発性穿孔1例、後出血2例)であった。

【結論】

大腸内視鏡的粘膜下層剥離術(endoscopic submucosal dissection:ESD)後の人工潰瘍に対し、創縫縮療法により術後の発熱・腹部症状などの改善、炎症反応の上昇の抑止、合併症のリスクを低下させるものと推測される。

平成26年12月24日に行われた学位論文審査委員会においては、以下に示す様々な質疑応答が行われたが、それぞれに対して概ね適切な回答が得られた。

1. OTSCにより縫縮される大腸壁の層について
2. OTSC脱落までの期間と、脱落による有害事象について
3. ESDによる遅発性穿孔の機序について
4. Retrospective studyゆえのBiasについて
5. 縫縮群で炎症反応が抑制された機序について

本論文は大腸腫瘍に対するESD後に発生する人工潰瘍をクリップで縫縮することで、有害事象を防止する試みを検討したものである。臨床症状、炎症反応、合併症発生率を評価し分析することで人工潰瘍縫縮の有用性を証明した。Retrospective studyではあるが、これまで類似の論文は少なく臨床的意義があり、また消化管内視鏡による全層切除へのOTSC適応など、今後の展開も望める。本審査委員会では審査員全員一致して博士(医学)論文に相応しいものと判断し、合格とした。

掲 載 誌 名	Oncology Reports 第 30 卷, 第 1 号		
(公表予定) 掲 載 年 月	2013年 5 月	出版社(等)名	Spandidos publications

(備考) 要旨は、1, 500字以内にまとめてください。